

勝林寺報

道綽 決聖道難証
唯明淨土可通入
万善自力貶勤修
三不三心誦懲勸
像末法滅惡值弘誓
至安養界証妙引
一生造惡值弘誓
道綽禪師さまは七高僧のうちの第四番目のお祖
第三祖の疊禪さまが亡くなつて二十五年ののち
(五六二年)に今の山西省にお生れなさいました。
禪師は最初『涅槃經』というお經の研究家として活躍していましたが、のち四十八歳のころ疊禪さまの教えにあつてお念佛の道にお入りなさいました。そして終生称名念佛・往生淨土の道を中国全土に広くひろめることに努められました。

したがつて道綽さまというお方は、『涅槃經』といふ道教の深い思想の上に立ちながらしかも末法の濁つた時代のなかにみずから煩惱にさいなまながら生きねばならない人間のくらしのなかに疊さまの教えを仰いでいかれた方といえるでしょう。

理屈ばかり言つている当時の宗教家、あさましい自分を横に置いておいて高い所からものを言つてゐる人たちを厳しくしりぞけて、正しいお念佛をひるめてくださつたのが道綽さまです。ですから「正信偈」のこの部分には、道綽さまのお仕事を、親鸞さまは次のようにおたゞえになつてゐるのです。

道綽さまは、聖人聖者とよばれる方々が、その磨きあげた知恵と自からの修行実践の能力とで仏のさとりを開く道(聖道・自力の道)もあろうけれ

道綽 決聖道難証
唯明淨土可通入
万善自力貶勤修
三不三心誦懲勸
像末法滅惡值弘誓
至安養界証妙引
一生造惡值弘誓
道綽禪師さまは七高僧のうちの第四番目のお祖
第三祖の疊禪さまが亡くなつて二十五年ののち
(五六二年)に今の山西省にお生れなさいました。
禪師は最初『涅槃經』というお經の研究家として活躍していましたが、のち四十八歳のころ疊禪さまの教えにあつてお念佛の道にお入りなさいました。そして終生称名念佛・往生淨土の道を中国全土に広くひろめることに努められました。

したがつて道綽さまといふ道教の深い思想の上に立ちながらしかも末法の濁つた時代のなかにみずから煩惱にさいなまながら生きねばならない人間のくらしのなかに疊さまの教えを仰いでいかれた方といえるでしょう。

理屈ばかり言つている当時の宗教家、あさましい自分を横に置いておいて高い所からものを言つてゐる人たちを厳しくしりぞけて、正しいお念佛をひるめてくださつたのが道綽さまです。ですから「正信偈」のこの部分には、道綽さまのお仕事を、親鸞さまは次のようにおたゞえになつてゐるのです。

道綽さまは、聖人聖者とよばれる方々が、その磨きあげた知恵と自からの修行実践の能力とで仏のさとりを開く道(聖道・自力の道)もあろうけれ

ども、それはお釈迦さまや菩薩さまが直接導いてくれた時代(正法の時代)ならざ知らず、

お釈迦さまから遠くへだたつてしまつた今、しか

もこのように世の中は乱れ人の知恵も心もすだれ

きつた今の私たちには、とてもたどることも学ぶ

ことさえもできない道だと教えてください。

亂れた世であること、すなれ果てた私の心であ

ることをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

る道は、たゞ、如来さまの願力のなかよらさけび

出された南無阿弥陀仏のお念仏(円満の徳号)の

力のなかで、如来さまのいのち如来さまの世界

へ生れかわらせていたたく往生淨土の道だけしか

ないと教えてくださいました。

私たちちは、如来さまのお名号を専らとなえ聞か

せていただきばかりでよいのだとすゝめください

ました。それから、弘誓に値して教わるよ

うことをかえりみないで、万善自力どうぬぼれ高

ぶつてゐる聖者づらの人たちを道綽さまは厳しくいましめられたのです。

この末法濁世の、この煩惱さかな私が救われ

私のお念仏（一）

口小谷宮嶋千秋

ご院家さまには、年中私達のために、お忙しいなか、毎月この寺報の編集から印刷・発送まで、門徒たるまで詳しくお伝えいたさき本当にご苦労様でございます。あつく御礼申しあげます。

この寺報に私達仏教青年会も便乗させていたので、心の交流をさせていただきたくて、私のような者の気持ちも聞いていたさきたいと思い筆をとりました。

つね日ごろは、しあわせとか感謝などというようなものはほとんど心の底深くおし込み、たゞ出るのは愚痴とため息の毎日であります。自分だけの都合によつてこれは辛いことこれは悪いこと決めたり、自分の好ききらいによつて善い人悪い人、善い親悪い親と決めている私ではないでしょうか。ほんとうに恥かしいかぎりでございます。

その昔私がまだ子どもがありのころ、祖父たちから初めて電燈が点いた時のよろこびをよく聞かれました。ほんとにすばらしく有難いものであつたと思います。今では電燈があるのは当前のようになつていますが、そのころには不思議な光であつたと思ひます。つまり、そのころの電燈は人の心のなかまで照してくれた電燈だったのです。これはもつと大昔のことになると、人類がはじめて火による生活を学び、火の光によつて導かれたそのよろこびは今の私には想像もできません。

ご院家様から聞いたことですが、この世のずっと大昔、深い深い闇の中にはじめてかすかなとももし火をか上げて出てくださった仏様は錦光如来（かすかな光のほとけさま）というのだそうです。

どんなに小さな光でも闇の中に住む人々には大きな救いの火であつたに違いありません。お仮壇に「ローソク」の小さな火をともして礼拝するのには、この光をおおぐためではないかと思つています。

また、お仮壇の「ローソク」の火は人生のはかなさをよく物語つているように思います。少しの風にもゆれうごいつ消れるかも知れないし、やがて燃え尽きるともし火です。

あれこれと仏様のともし火をおがみながら思うのですが、人間いくら強い人でも、一人では生きることはできません。先ずは自然の大恩、社会の恩また親や家族の恩、総じて仏恩と私は思はせていただております。

私は近年両親を亡くし全ての叔父も亡くした今になつて始めて、それらの方々が私のためにどれだけ尽してくれたかと、あらためて心に浮べ思ひみるのです。自然に涙が出てまいります。その涙も、いろいろな人を子や孫に伝えるのが、私の生涯のつとめであり、無量寿のうちに住まわせていたよく者のおつとめだと思うのです。南無阿弥陀佛。

ところには、一人一人の弥陀があり涙ひかりてとも輝く



研修旅行の

日どり変更

「勝林寺寺報」一月号では六月の十六日十七日と予告していた仏壯仏婦の研修旅行でしたが、その後出石組連合仏婦の総会が入つてきた都合で、予定を一週間早めに実施することになりました。

行先は京都のご本山・大谷本廟・龍谷大学礼拝堂・草津の臘光寺・木辺の錦織寺。

六月九日（土）・十日（日）

一年生
お入学やがおどりで春に
おめでとう桜の花が咲いて
つくしのぼう

次の人々が一年生になります。

よい子に育つようにと
お寺から本とお珠数を贈ります

「涅槃經」というお経のなかに
足るを知るは
第一の富。

「私だけでも」「私だけは」とものを求めつけるのではなく、「私のようなものにも」とものをおかげ受け取らせてもらえないものでしょか。

「足るを知るは
第一の富。」

中島章乃さん（坪口）
湯口朋宏くん（栗尾）
田中祥子さん（小田）
稻木典子さん（保谷）
岸下加奈子さん（出合）
稻葉直樹くん（出合）
関川貴文くん（出合）
金久幸司くん（矢根）

足るを知るは

たとえ物にめぐまれなくとも、与えられたもの
を有難いといたゞく心。

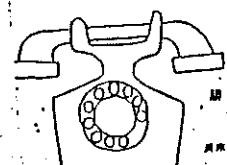
そこにこそほんとの豊かな生活がひらける。
あれを手に入れたい。あそこに住んでみたい。
これを着たい、これをたべたい。

私たちはこんなに年が寄つた今でも、尽きない
欲望で、あくせく物を追い求める日ぐらしをして
おります。

私の欲望のために人を押しのけ蹴落とすことも
しばしばあります。

おれだけは、私だけはという本性で、ものを求
め求めて忙しい忙がしいとくらしているのが私の
毎日ではないでしょうか。

5800番

いつもどこからでも
ダイヤルしてみてください電話
法
數
聞
け
る毎月十日目に
並びがわります。

勝林寺本院
御
寺
テレホン法話
兵庫県出石郡出石町内町五九

(三月一日勝林寺テレホン法話)

「いや欲があるから進歩がある。欲望があるから世の中の発展もある」という人もあります。
なつてはいませんか。私だけの利益を追い求めて
その通りかもしれません。我利我利亡者になつてはい
ないでしようか。

しかし、いまあなたの欲望が、私中心の欲望にな
つてはいませんか。私だけの利益を追い求めて
はいなでしようか。我利我利亡者になつてはい
ないでしようか。

「いや欲があるから進歩がある。欲望があるから
世の中の発展もある」という人もあります。
その通りかもしれません。